

令和 7 年 6 月 12 日
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長 野崎 秀則

建設技術公開「EE東北'25」に出展

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（代表取締役社長：野崎秀則）は、2025 年 6 月 4 日(水)～6 月 5 日(木)の 2 日間、みやぎ産業交流センター「夢メッセみやぎ」（宮城県・仙台市）で開催された建設技術公開「EE 東北'25」に出展いたしました。当イベントにおける出展技術数は 952 技術、総来場者数は 18,700 人でした。

弊社はオリエンタルコンサルタンツホールディングスとして株式会社エイテック、株式会社アサノ大成基礎エンジニアリングを加えたグループ企業 3 社での共同出展を行い、グループとしてのワンストップサービスのアピールも同時に実施しました。弊社におきましては、「インフラマネジメントシステム (IMS)」、「スマート防災（防災×3D）」、「アラートシステムを活用した冬期道路管理の高度化」の 3 技術を紹介しました。

ブースには行政、企業、学校関係者など合計 469 名にお越し頂き、盛況のうちに終えることができました。ご来訪いただいた皆様、誠にありがとうございました。

《開催概要》

主	催	: EE 東北実行委員会（委員長／東北地方整備局企画部長）
開	催	日 時 : 2025 年 6 月 4 日(水)～6 月 5 日(木)
会	場	: みやぎ産業交流センター「夢メッセみやぎ」屋内展示場及び屋外展示場 〒983-0001 仙台市宮城野区港 3-1-7



インフラマネジメントシステム (IMS)

インフラマネジメント支援システム(橋梁版)

～自治体の効率的かつ効果的な公共施設マネジメントを支援します～

○ インフラマネジメント支援システム(橋梁版)による維持管理の円滑化

- ・インフラマネジメント支援システム(橋梁版)は、長寿命化計画に基づいた「実施計画」⇒「点検」⇒「診断」⇒「設計・工事」⇒「点検」のサイクルを支援します。
- ・xROADとAPI連携し、最新の定期点検結果を基に橋梁長寿命化計画策定を支援します。

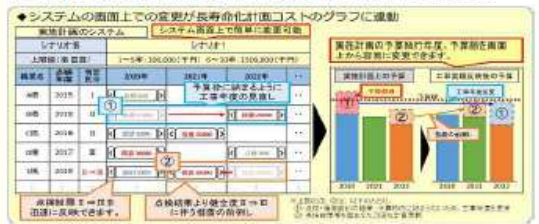


○ 機能①：実績を反映し精度の高い予算価格を作成

計画策定時に補修実績を基に予算設定の精度を高め、予算と実工事費の乖離を減少させることで現実合った長寿命化計画の策定が可能。

○ 機能②：現場の作業進捗に合わせて工事箇所を自由に組替え

点検結果を反映した計画の見直し、当初計画が変更になっても、簡単な操作で予算の見直し、予算要求資料の作成が可能。実施計画作成の効率化が図れます。



○ ご提案：システム運用・橋梁マネジメントを併走して支援

システム導入後も、自治体ごとの運用体制やニーズに応じた調整・カスタマイズを行い、マネジメントサイクルに基づく継続的な改善を支援します。



インフラマネジメント支援システム(舗装版)

～安全と安心を確保する持続的な道路管理を支援します～

○ 舗装長寿命化計画作成のご提案

- 1. 補助金申請への活用**
 - ・国からの補助には、交付金(社会資本整備総合交付金)及び公費債(公共施設等運営費)が活用可能。その申請に、舗装長寿命化計画を活用することが可能となる。
- 2. 計画的な維持管理を実施**
 - ・いつ何処を修繕するか、計画されているため、放られた予算で効果的・効率的に修繕を実施することが可能となる。
- 3. 抜本的な舗装修繕の実施**
 - ・路面表面を直すだけでなく、路盤・路床から修繕することで、舗装寿命の延長を行い、舗装の長寿命化を図ることが可能となる。
- 4. 本来、職員が担うべき業務に集中**
 - ・職員の不足、住民対応に対して計画等を活用することで、職員が担うべき仕事に集中し、教育訓練、技術伝承を図るなど選択と集中が可能となる。

○ 舗装長寿命化計画の策定をご支援します



○ インフラマネジメント支援システム(舗装版)とデジタルトランスフォーメーションによる維持管理

- ・点検結果を基に修繕の優先度を上げ替えられ、具体的な工事単位(区間)を指定が可能。
- ・予算に応じて工事区間の修繕年度を変えることで、修繕費用の算出が可能。
- ・クラウドを利用し、携帯端末と事務所PCを連携し、情報の確認、登録、更新などがリアルタイムで行えます。
- ・住民要望の対応記録、道路バトロールの管理、災害時緊急点検の記録などを活用した舗装の長寿命化計画の作成にも活用が可能です。



アラートシステムを活用した 冬期道路管理の高度化

アラートシステムを活用した 冬期道路管理の高度化

(株)オリエントコンサルタンツでは、気象予測データだけでなく、AIカメラによる交通データ、気象データをリアルタイムに収集・処理し、スタックの予告を検知するアラートシステムについて提案いたします。

○ アラートシステムの構築

道路・交通・気象状況をリアルタイムに収集し、制御BOXで処理し、アラート発生閾値を踏まえてアラート(回転灯やメール)を発報する仕組みを構築します。



○ AI技術を活用した交通状況・道路状況の把握

AIカメラでリアルタイムに交通状況を把握し、AIによる路面予測技術で路面状況を把握することで、暗黙知ではなく形式知としてスタックの予告を検知可能となります。また、豪雪時等における緊急体制発動基準の明確化が可能となります。



スマート防災 (防災×3D)

スマート防災 (防災×DX)

スマート防災では、災害の「自分事化」を促し、強固な推進することを目指して、①事前防災、②発生時、③復旧・復興のそれぞれのフェーズに3D都市モデルを活用するものです。

○ 事前防災への活用例

内水、河川、高潮、津波などの氾濫シミュレーション結果を3D都市モデルに重ね、時間軸に沿った水の浸透を可視化し、情報の一元管理により、防災行政の効率化・高度化を支援



動くハザードマップ
(3D都市モデル+内水氾濫シミュレーション)

○ 発生時の活用例

ワンコイン浸水センサで検知した浸水状況を3D都市モデルに表示し、情報の一元管理により、防災行政の効率化・高度化を支援



浸水後の避難ルートの設定支援
(3D都市モデル+ワンコイン浸水センサ)

○ 復旧・復興期の活用例

ワンコイン浸水センサで検知した浸水状況の履歴を3D都市モデルに記録することにより、水害の復旧・復興を支援



従前:復旧・復興期発生のための人による調査 → ワンコイン浸水センサで取得した浸水履歴から被災水位を表示 (3D都市モデル+ワンコイン浸水センサ)



<本資料に関するお問い合わせ先>

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

TEL : 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011

URL : <https://www.oriconsul.com>

統括本部 伊藤・日原・丸山・門司